

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401865		
法人名	有限会社 タワラ		
事業所名	グループホーム 第二幸せの枝		
所在地	〒814-0175 福岡市早良区田村7丁目24-84 Tel 092-874-3185		
自己評価作成日	平成 22年 9月 15日	評価結果確定日	平成 22年 10月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成22年 10月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開放的な事業所である事。  
利用者さんが毎日穏やかに過ごされて居る事。健康管理が出来、インフルエンザ、食中毒、発熱などなく病院に入院する人が居なかった事。職員が皆明るい事。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「第二幸せの枝」はシロウオで有名な室見川近くの住宅地の一角に、一般住宅を改築し、違和感のない家庭的な雰囲気、地域に溶け込んだ建物になっている。広い中庭には、手入れのいき届いた草花が咲き乱れ、畑では、利用者職員が丹精込めた作物が生き生きと育っている。開設6年目を迎え、利用者の、日々の暮らしぶりは、穏やかで、落ち着きがあり、職員との信頼の絆は深いものがある。特に、看護師が3人、常勤し、利用者の健康管理や、暮らしぶりは、万全のものがあり、家族の評価は高い。また、地域の夏祭りや行事、奉仕活動等に参加し、近隣の方と顔なじみになり、散歩コースで挨拶や会話をしたり、魚等の差し入れがあったり、地域密着型ホームとして、交流も深まり、今後が期待されるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人が理念を理解し日々利用者に関わる際に意識をして取り組むことに務めている。	入居者一人ひとりの個性を大切に、ありのままを受け入れて心のリハビリを目指し、個性、能力を最大限に引き出し、地域の中で終の住居となることを目標にケアすることを理念に掲げ、毎朝理念を唱和し共有することで実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけた時に、地域の人達と挨拶を交わしたり、立ち話をしたりして、グループホームを理解して頂く様に務めている。	地域の夏祭りや清掃活動に参加している。また、ホームの農園で収穫した野菜や果物を入居者と一緒にご近所に届けるなど交流に努めていく中で、ご近所からもお魚を頂いたり散歩や買物時に挨拶が交わされるようになり、地域の一員として日常の交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習などの申し出があると拒否しないで受け入れており、地域の行事などの参加もしているが、理解が得られない事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では事業所の報告や会議メンバーの情報も参考にしている。意見なども色々頂いたりしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、町内会会長、副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域のボランティア、ホーム職員がメンバーとなり開催され、ホームの状況報告、活発な意見交換が行われている。会議中での消防訓練や家族の参加などを検討中である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の取り組みやケアの困難な場合の相談などその都度相談しながら対応している。	地域包括支援センター職員が、運営推進会議のメンバーであることから、その中での情報提供や、困難な事項について相談したり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はないが、カンファの時などに話し合っている。	身体拘束廃止マニュアルに基づいて、言葉の拘束、虐待について常に話し、職員の意識付けに努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解を深めるように順番に研修に参加させている。その後、カンファにて報告してもらっている。	権利擁護に関する外部研修に参加し、資料を持ち帰り、カンファレンス時に報告を行い、職員の理解を深め、入居者や家族が必要とされた時にいつでも情報提供できるよう準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所でのケア内容など説明を行っており、進退時は家族との話し合いも密に行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時に、希望、不満など聞いている。月1回の幸せ通信でもお知らせをして、問題点は会議などで話あっている。	玄関に意見箱を置き、利用者との話し合いの場である「幸せ会議」、また年2回の家族会、家族の面会時にコミュニケーションをとる等、利用者、家族の意見の表出の場を努めて用意し、出された意見はホームの運営に反映できるよう努力している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、不満など気軽に言えるような雰囲気作りはしている。	常日頃から、ホーム長は職員の思いを聞き取り、細やかな気配りを行っている。また、月に1度のカンファレンスには職員全員が参加し、活発に意見や提案を出し合い、ホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行いストレスが溜まらないように気分転換が出来る環境作りなどに心掛けている。職員同士の人間関係の把握に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別は排除していないが年齢は考えている。力仕事なので腰が痛くなる人もおり同じ職員での仕事の区別は難しいものがある。同じ仕事が行なえるほうが好ましいと考えている。	職員の採用にあたっては、体力的に問題がなければ性別、年齢で区別することはない。事業所で働く職員については、休憩室、ロッカーを整備し、勤務ローテーションの配慮を行い、職員一人ひとりの能力を十分に発揮し、生き生きと働けるよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	常にカンファの折話し合いはしている。	人権教育に関する研修会に参加し、事業所内で勉強会を行うことで周知に努め、ホームの理念を大切にしながら、利用者一人ひとりの尊厳を大切にケアの実践に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる研修に交代での参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センター主催での勉強会に参加している。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に説明をしている。本人、家族が求められているのかの把握に努めている。ご家族は何に困っておられるのかなかなか本当事をお話されない事が多くみられる。			
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族要望を何処までかなえられるのかはっきりお伝えしておりますが、寄り添えるように努力をして行く。			
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人、家族の思いを確認をして改善に向けた支援の提供をし早急な対応を考えている。			
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の喜び、不安などの把握に努める。傾聴対話ケアにて、話を引き出したりして対応に務めている。職員は命令、拒否などをしない事を前提としている。			
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族に思いを元に、同じような気持ちで接して行く事に務めている。			
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが、友人、知人の方から疎遠になれることもある。	利用者の希望を聴きながら、出来るだけ希望に添えるよう、家族と相談しながら支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が促し、介入、個性に応じた対応をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで退居は死亡時のみで、退居後に家族からの電話があり、思い出話をしたりしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかわりの中で声掛けをし把握に努めている。ご家族からの情報などを参考にしている。	利用者、職員の異動が少ないため馴染みの関係はしっかり築かれている。毎日の暮らしの中の声かけから、ちょっとしたきっかけで思い出話がどんどん出てくることもあり、そういった関わりや家族からの情報をもとに、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話、家族の話を元に生活歴などの把握に努めている。生活歴なんかはときどき思い出した様に話されるので、聞いている。			
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムなど理解している。小さな行動、動作から感じとり、把握している。			
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族より意見を聞き、カンファなどで話しあっている。その結果を介護計画に反映している。	利用者、家族の意見、希望を聴きながら、主治医、関係者と話し合い、それぞれの気づきや意見を反映させ、利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、計画は3ヶ月ごとに見直しを行い、利用者の状態に変化があった場合はその都度見直ししている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化、職員の気づきをケア記録に記載している。毎朝、夕の申し送りをして職員に把握してもらっている。			
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況には臨機応変に対応している。面会時など家族に食事の提供なども声掛けしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容、訪問マッサージなどの活用はしている。推進会議などで地域の情報などは活用させてもらっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望の応じて対応している。事業所協力医の他、利用者のかかりつけ医での診療が受けられるようにしている。必要に応じて受診の付き添いや、家族に同行している。	利用者、家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医の受診を支援している。また、事業所の提携医の月に2回の往診、受診など、情報を共有しながら安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が3人が勤務をしており状態変化などに応じた対応は出来ている。体調などの早期発見に取り組んでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と共に回復状況交換し退院支援に結びつけている。職員が度々見舞うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、主治医と度々の話し合いの場を設けている。随時意思確認を行っている。	本人、家族、主治医、関係者で繰り返し話し合い、利用者、家族にとって何が一番良い支援なのかを考えながら、重度化や終末期に向けての取り組みを検討中である。	利用者の状態変化に、事業所として出来ること、出来ないことを明確にし、重度化に向けた指針を作成し、利用者や家族に説明し、理解してもらうことが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファ時に応急処置などの話はしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実地している。消防署の協力など求めている。運営推進会議などでも協力を求めている。	消防署の協力を得ながら、年に2回の避難訓練を実施し、非常災害時に冷静に対応できるよう努めている。	地域住民の参加のもと、夜間を想定した訓練の実施と共に、災害時に備えた飲料水、非常食、毛布などの備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切にさりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすいと言葉かけを心掛けている。	しっかりした馴染みの関係の中、信頼関係も深く、職員は利用者の性格を熟知し、適切で優しい声かけ、対応などで、一人ひとりの人格を尊重したケアを実践している。また、個人ファイルも表から見えないよう保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせての言葉掛けをし、意思表示が出来ない方は表情を見たりで判断をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが1人、ひとりのペースにあわせた対応を心掛けている。体調、場所など見ながらの対応に心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。理美容では、訪問美容を利用しているが、パーマ、髪染めなどは本人が希望されれば、家族に了解の下にってもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員、利用者と同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る様に雰囲気作りをしている。利用者と一緒にとってきた畑の野菜など準備をし食卓に上げている。話題の提供にも心掛けている。	利用者と職員と一緒にテーブルにつき、笑い合い、会話しながら、微笑ましく温かい家族的な雰囲気である。また、ホームの農園で採れた野菜をふんだんに使ったメニューは美味しく、利用者も生き生きと食事をしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調にあわせ食事量などを把握している。主治医の指示通りのカロリー食にあわせている(糖尿病)		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、週一回の歯科往診をして頂いている。自分の歯の方は最初は自分で磨いてもらい、その後の点検をしている。肺炎予防にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ使用している人にも2時間毎位のトイレの声掛け、誘導をしている。オムツ、パットなどの使用の際は時間帯に応じて対応している。	利用者の排泄チェック表や水分量などから、利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握して、細やかに声かけや誘導を行い、本人が心地よく過ごせるよう努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日している。水分補給、おやつなどの工夫など行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、曜日、時間帯は決めているが、利用者が希望すれば、毎日お風呂は沸かしているのに入れるようにしている。	基本的に入浴は週に3回としているが、希望があれば毎日入ることも出来る。入浴拒否の方に対しては、無理強いせず、足浴や清拭を行い、会話などで気分転換を図りながら、気持ち良く入っていただけるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防ぐ為に昼間は、昼食後の休憩以外活動してもらうように心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を全職員がいつでも内容を把握できるようにしている。服薬確認は必ずおこなっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの個性、好きな事などを把握し、家事手伝い、食事の下準備、作品作りなどして頂いている。嫌いで出来ない事など無理強いはしていない。ご本人からの要望はない。職員が提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	幸せ会議で希望を聞いているんですが、殆どの人が「何処でもいい」と具体的には言われなく、家族の誘いがあると、同伴で行かれるも何処に行ったかわかれない事が多いが外出の支援は行っている。	ホーム中庭の農園での作業、草花への水やり、散歩、買物など、「1日1度は外の空気を吸ってもらいたい」というホーム長の思いのもと、職員が一丸となって日常的な外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布にお金が入っている深直しされ、いざと言う時には財布がないと言われる人が多い。買い物時も自分の財布からだと言いませんと言われる方が多い。あまり意味がない様におもえます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している。知人などからの電話は取り次いでいるしご自分のお部屋でお話が可能である。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑の中から苑庭を見四季の移り代わりが分かるようには工夫しており、空間にはご自分で作成された掲示物などを飾っている。室温調整などは細かに心掛けている。	ホームの庭には季節の花が咲き、壁やウッドデッキの柱には琉球朝顔のグリーンカーテンが涼しげな空間を演出している。玄関を入るとホームのあちらこちらに季節の花が生けられ、利用者の似顔絵、貼り絵、写真、月替わりで作られる折り紙の作品など、賑やかに飾られ、明るく、温かい雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに皆さん集まってTVを見たり、新聞を読んだりお隣の方とお話したりされている。余り、家具の移動などはしていない。ご自分の席が自然と決まっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に今まで使用されていたものを持参してもらっている。	居室は明るく、季節の花が生けられ、利用者の馴染みのタンスや椅子が置かれている。また利用者手作りの作品、写真などが飾られて、本人が居心地よく穏やかに過ごせる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備に務めている。1人1人の能力にあわせ必要な目印をつけたり物の配置に配慮している。		